



8

The Fifth Year



わたしは、この夏、学校の海外研修活動でインドネシアのバリ島に行ってきました。そこで私が見つけた

○ののは
高校2年生

みなさんこんにちは。前回に引き続き、2030年の世界に残りたくないこと、もしくは、2030年以降の世界に残していきたいものについての紹介と、自分ができる小さな一歩についてお伝えします。読者のみなさんは、どんな未来を想像し、創造したいと思いますか？

「2030年以降も残っていて欲しいもの」を紹介します。滞在中、レストランに行く機会が何度もありました。その際に印象的だったのが、それぞれのレストランのスタッフの方が、食事中の私たちに高頻度で話しかけてくれたことです。まず英語で「Welcome you from?」と聞かれるので、日本であることを伝えると、「オイスイデスカ?」と、カタコトではありますがですが日本語で聞いてくれるのです。私が「美味しいです。ありがとうございます」と答えようと彼らはとてもニコニコした表情を見せてくれました。この笑顔を見た時、日本ではこのようなシーンは珍しくなってしまうているなど気づきました。感染症対策や人手



不足対策として、非接触化や効率的なデジタル化が急速に進み、スマホ注文や配膳ロボットも多く導入されるようになってきている日本。それらはとても便利で、私もその恩恵を受けている一人ではあります。でも、今回バリ島での経験があったからこそ、サービス業における「ビートの笑顔」が失われ



つつある日本に、私は寂しさを覚え
ました。現代社会の実情として、
効率化・デジタル化が必要とされ
る理由があることも確かです。で
も、2030年にも「ヒトの笑顔」
は残っていてほしい。この葛藤の
答えを、みなさんと一緒に模索し
ていきたいです。

今年、日本は戦後80年の節目を
迎えました。昨年には、長年にわ
たり核兵器の廃絶を訴え続けてき
た日本原水爆被害者団体協議会
（日本被団協）がノーベル平和賞を
受賞しました。しかし世界に目を
向ければ、戦争の炎は絶えず、人々
の命と尊厳が脅かされ続けていま
す。

そんな中、8月に広島で「平和

教育と向き合う」勉強会が開かれ
ました。参加したのは、子どもた
ちと日々向き合う現場の教員たち
です。私たちは戦争を体験した世
代から直接「生の声」を受け取れ
る最後の世代です。しかし20年後
には、その証言を耳で聞くことは
叶わなくなります。だからこそ今、
この手で未来へとつなぐ責任があ
るのではないか。その想いを胸に
集まりました。

被団協の田中氏の講話は、過去
を振り返るだけのものではありません
でした。「核を持った人類とし
て、これからどう生きるのか」。そ
う問いかけ、自分ごととして小さ
な行動を積み重ねることの大切さ
を語られました。核の問題は特別
な人のものではなく、私たち一人

ひとりの選択に関わる問いなのだ
と気づかされます。

また、広島で育った高校生たちの
発信も心に残りました。彼らは
小学校から積み重ねてきた平和学
習を経て、「戦争の恐怖を学ぶ」の
ではなく「対話したい」と語りま
す。戦争や被爆、そして「核を持
たない」未来について、大人や関
係者と真剣に語り合うことを求め
ています。その姿は、平和教育を
「知識の伝達」から「対話による共
創」へと変えていく力強い兆しに
思えました。

さらに、広島で生まれ育った大
学生が披露した取り組みも印象的
でした。自分の愛する音楽を通じ
て被爆ピアノの演奏会を企画し、
戦中に音楽を愛しながら20歳にな





れなかった人々に思いを馳せるものでした。平和を語るだけでなく、自らの表現で行動に移す姿は、未来を担う世代の誠実な挑戦でした。

そして、平和文化センター前所長のステイブ・リーパー氏は、歴史の権力者が築いた「統制による平和」ではなく、協力と対話を基盤にした「ボトムアップの平和」を説きました。競争ではなく協力へ、支配ではなく対話へ。その言葉は、教育の現場でこそ実現できる希望の種だと感じました。

この勉強会を通じて、私は「平和を伝える」から「平和を育てる」へと発想を転換する必要を強く感じました。証言を受け継ぎ、対話を重ね、表現を通じて行動する。平和教育は過去を学ぶだけでなく、

未来を創る営みなのだと考えました。

80年の歳月を経た今、私たちが子どもたちと共にできることは何か。問い続け、語り合い、小さな一歩を積み重ねること。それこそが、未来に平和をつなぐ唯一の道なのだと思います。

(山藤)



宿泊イベントのご案内

長期休みを「ちよつと特別な時間」に変えませんか。

この冬休み、12月22日(月)23日(火)に、山梨県の耕雲院で1泊2日の宿泊イベントを開催予定です。講師の河口さんは、子ども食堂、オンライン坐禅会、禅の食事作法を味わう教室など、日常の中に「禅の心」を楽しく取り入れる活動が続けています。今回は、精進料理を一緒に作り味わいながら学ぶ特別な時間を企画中です。食に関心がある方や、心と体を調えたい中高生や大人のみなさん、ぜひご参加ください。

事前説明会申し込み↓



協力：一般社団法人シンク・ジ・アース／新渡戸文化高等学校教諭 山藤旅蘭

